

第3学年 算数科学習指導案

1 単元 大きさをグラフに表そう

2 主眼

- 最小目盛りが1でない棒グラフの一目盛りは、0と次の目盛りの数値の間が何等分されているかに着目して求めればよいことがわかり、グラフを正しく読み取ることができる。

3 本時の学習活動 (5 / 1 2)

段階	学 習 活 動	具体的な手立て ※評価
<p>知る (説明) ⑩</p>	<p>1 予習から、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>一目盛りが1でない棒グラフを読めるようになるろう。</p> </div> <p>○ 予習の内容を確認し、これまでの学習との違いを見つけ、目盛りの数値について確認する。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 0の次の数字に目をつける。 ② □とびになっているかを見つける。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【予習内容】 すきな動物調べの棒グラフから、ライオンが好きな人の数とキリンが好きな人の数を読み取る。</p> </div> <p>【困難度査定】 ◇ 一目盛りがいくつになるかを捉えきれない児童がいることが予想される。</p> <p>○ 目盛りの数値と数値の間が何等分されているかに着目させる。</p>
<p>できる (理解確認) ⑮ ふかめる (理解深化) ⑮</p>	<p>2 習得した考えを使って練習問題を解き、一目盛りがいくつを表しているかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題1：最小目盛りが5の棒グラフの読み取りをする。 問題2：最小目盛りが10の棒グラフの読み取りをする。 問題3：最小目盛りが2の棒グラフの読み取りをする。</p> </div> <p>3 思考を深める問題を解き、考えを交流し合う。</p> <p>下のグラフを見て次の問題に答えなさい。 問題1：横向きの棒グラフの横の軸の一目盛りは何冊を表しているか。 問題2：貸し出された本の数が最も多いのは何年生で何冊か。 問題3：6年生は4年生より何冊多く貸し出されたか。</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<p>○ ポイント①、②の手順に沿って指さしながら子どもと一緒に棒グラフを読み、一目盛りの大きさを確かめる活動を位置づける。</p> <p>※ 棒グラフの一目盛りがいくつになるかと、棒グラフの数値からわかることについて、説明の手順に沿って説明することができる。</p> <p>○ 横向きの棒グラフがあることや、目盛りと目盛りの間を指す棒グラフがあることを理解させるために、【条件の変更】の問題を位置づける。</p> <p>○ 目盛りの数値と数値の間が何とびになっているかに着目させる。</p> <p>○ 一目盛りの数値が何になるかをペアで話し合わせて見通しをもたせることで自力解決できるようにする。</p> <p>○ 考えを全体交流することで理解を深めることができるようにする。</p> <p>○ 理解状況を把握するために、ふり返りをノートに書かせるようにする。</p>
<p>ふり返る (自己評価) ⑮</p>	<p>4 本時学習をふり返り、「できたこと・できなかったこと」を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ふり返ったことをペアで伝え合う。 ○ 次時の予習内容について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書 73 ページ「乗り物調べ」の表のかき方を読み、わからないところに印をつける。 	<p>○ 次時の予習内容を確認し、解き方の見通しをもたせる。</p>